

下大賀遺跡（しもおおがいせき）

所在地：那珂市下大賀845番地ほか

調査期間：平成28年10月1日～平成29年3月31日

調査面積：4,591㎡

委託者：茨城県常陸大宮土木事務所

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（那珂事務所）

TEL：080-3405-9059 <http://www.ibaraki-maibun.org>

遺跡の立地

当遺跡は、那珂市の北部、久慈川の支流である玉川右岸の標高約41mの台地上に位置し、その範囲は広大で、旧石器時代から近世までの複合遺跡です。『新編常陸国誌』によれば、当地は平安時代には久慈郡倭文郷（しどりごう）に属するとされています。これまで断続的に発掘調査が実施され、当財団としては今回が5回目にあたります。

調査の成果

今回の調査によって、竪穴建物跡56棟、掘立柱建物跡14棟、柵列跡2条、土坑約500基、溝跡7条などを確認し、縄文時代から平安時代に至るまでの各時代の人々の生活の痕跡を発見しました。縄文時代の遺構は、竪穴建物跡2棟で、土器の特徴から前期初頭（約7,000年前）と考えられます。弥生時代の遺構は、竪穴建物跡3棟で、那珂川・久慈川流域および県北地域を中心に分布する十王台式土器が出土していることから、後期（約1,700年前）と考えられます。このことから、縄文時代と弥生時代には小さな集落が営まれていたことがわかりました。古墳時代の遺構は、竪穴建物跡9棟で、いずれも時期は中期（約1,500年前）で、大きいものでは一辺が9mもあります。縄文・弥生時代より多くの人々が暮らしていた様子が窺えます。最も多くの人々が暮らしていたのは、奈良・平安時代（1,200～900年前）です。竪穴建物だけではなく、掘立柱建物が整然と建ち並んでいたことが明らかとなりました。これまでの調査でも、有力者の存在が考えられていましたが、今回、倉庫と考えられるような掘立柱建物群が確認できたことから、さらにその可能性が高まりました。



下大賀遺跡の位置図



第164号竪穴建物跡（縄文時代）北から撮影



第171号竪穴建物跡（弥生時代）北から撮影

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。資料の引用・掲載はご遠慮願います。





第173号竖穴建物跡(古墳時代) 東から撮影



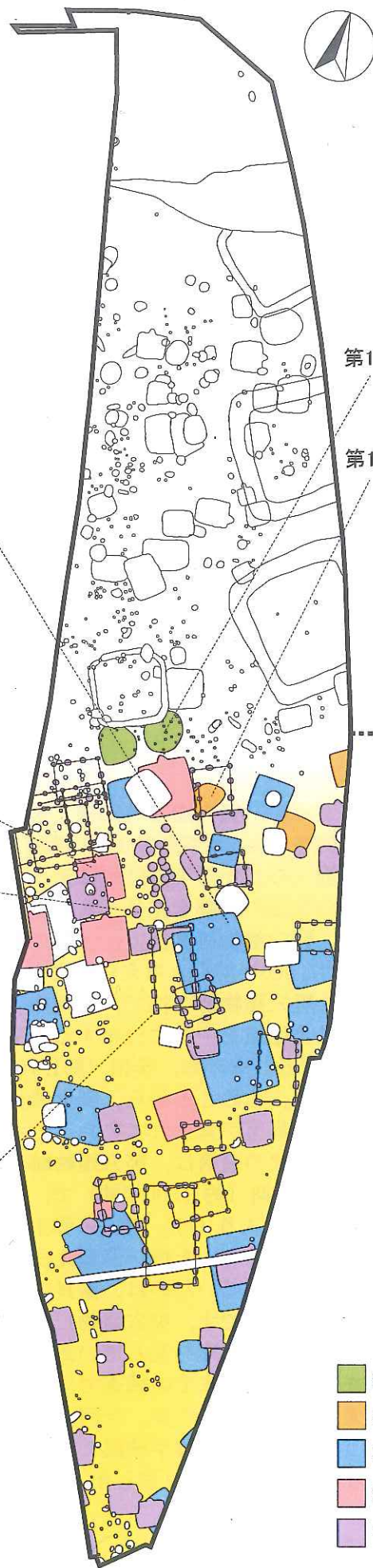
第169号竖穴建物跡(奈良時代) 東から撮影



第1056号土坑(平安時代) 北東から撮影



第11号掘立柱建物跡(平安時代) 北から撮影



第164号竖穴建物跡
(縄文時代)

第171号竖穴建物跡
(弥生時代)

平成
27
年度
調査
区

平成
28
年度
調査
区

- 縄文時代
- 弥生時代
- 古墳時代
- 奈良時代
- 平安時代

0 1/800 40m

遺構全体図